

# International Summer Course Program IPB

Sumire Okuno, Yuto Matsuoka (IU), Jun Ichikawa, Kimika Sano, Masato Hiratsuka, Satoko Omino, Moeko Sasakura, Soichiro Matsuzaki (TUAT)

「サステナビリティ=持続性」をテーマに、インドネシアの農業に関する問題について、地域の自然と共生してきた先人達の知恵・考え方を理解し、現在の学問を駆使して問題解決を行う実践的な能力を養う。

## 9月17日 IPB到着、対面



♪ゲストハウスにて参加者ご対面♪



ポゴール農科大学(IPB)  
スカルノハッタ国際空港から、バスで3時間



茨城大学、東京農工大学、琉球大学、香川大学の学生と合流。施設案内を受けて、参加者同士で自己紹介♪

## 18日 有機水田フィールドワーク

IPBの水田に行きました！



土壌と水のサンプルを採取し分析しました



農家の人にインタビューをしました

## 19-20日 ジョンゴル フィールドワーク

ジョンゴルはIPBの研修施設で、169haの面積をもっているそうです。

ジョンゴルでは、まずオイルパームのプランテーションの見学に行きました。IPBの学生たちがパームについての解説をしてくれました。オイルパームには雄花をつける年と、雌花をつける年があり、1本の木は2年周期で結実するそうです。



2日目は、牛、バッファロー、羊たちの行動観察と、それぞれの牧地の植生調査を行いました。その後は、畜産の農家さんや、農産品の取引市場を管理する組合の方にお話を聞きに行きました。インドネシアの市場取引には、この組合の存在が重要だそうです。

夜には調査の結果を踏まえて、家畜の飼育と土地の利用の関係性についてレクチャーを受けました。

ジョンゴルの夜には、IPBの学生との交流も盛り上がりしました。インドネシアではドラえもんや五輪真弓さんの「心の友」という曲がとても有名だそうです。ドラえもんはサマーコースのテーマソングになりました(笑)。



## 21日 観光

タマミニに行きました。インドネシアの伝統的な建造物・音楽を観てきました。



## 22-23日 授業 & プレゼンテーション

持続可能性に関連して、有機農業や今後の農業・環境についての講義をIPBから4人、茨城大から2人、琉球大から1人の先生方にいただきました。各日の午後は学生各々が自分の研究内容について英語でプレゼンしました。

IPBの学生たちは何にでも積極的で、質問や意見、ディスカッションに熱が入りました。先生の話だけでなく、IPBの学生の姿が同じ学生として、私たちへの良い刺激となりました。



## 24日 最終日 グループプレゼンテーション

最終日、一週間の総括としてグループプレゼンを行いました。テーマはサマーコースの主題である「サステナビリティ」について。

1. サステナビリティとは何か 2. 何故行うべきなのか 3. どのように行うか 4. どこで行うのか 5. 何をすべきなのか。同じ実習を経験し、同じ実験データを用いて、しかしそれぞれのグループが異なる視点から考え、まとめたことを発表し、ディスカッションを行いました。



Preparing...



Presentation & Discussion



Best presentation & poster !

その後の閉会式では、ベストプレゼンテーションの表彰が行われました。最後に修了証を受け取り、記念撮影

今回の実習を通して、インドネシアの農業が抱える問題を理解すると同時に、現地の学生とディスカッションすることで「サステナビリティ」の重要性を学ぶことができた。

今回の経験を活かし、現代の農業が抱える問題を考え、「サステナビリティ」への理解を深めていきたい。

